

# 法被のまち ~“いいだらしさ”と出会う舞台~

飯田には江戸時代から続く町組があり、それぞれに表徳・法被・神社を持っています。また、飯田には年間40以上の祭りがあり、各町には祭りを通して培われてきた豊かな歴史や文化、人のつながりがあります。それらはまちごとに特色があり、その一つひとつが“いいだらしさ”です。

この計画では“いいだらしさ”を飯田の最大の魅力として表出させます。法被の絵はその“いいだらしさ”が集まった飯田の姿を表しています。

来訪者はまちを散策し、たくさんの“いいだらしさ”に出会い、そしてりんご並木にたどり着きます。

飯田は“いいだらしさ”と出会う舞台となります。



■いいだの年間カレンダー

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
お練り祭り 桃	神輿渡御 林檎	折年祭本祭 桜 梨 花桃	お練り祭り 桃	折年祭本祭 桜 梨 花桃	お練り祭り 桃	お練り祭り 桃	お練り祭り 桃	お練り祭り 桃	お練り祭り 桃	お練り祭り 桃	お練り祭り 桃

### マスタープラン

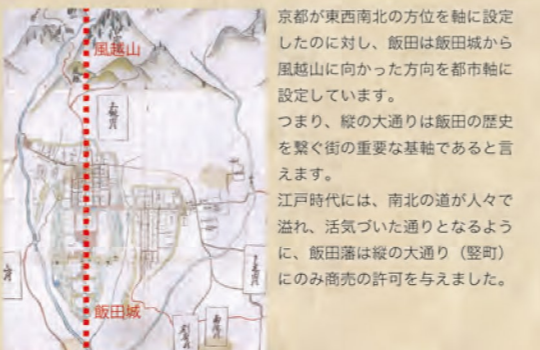
- 歩行者道路：ブッチー以外の車両は通行禁止とする。
- 歩行者優先道路：車両制限する。中央通りはボンエルにする。
- 交通用道路：車両の主要動線とする。
- 並木道：ブッチー以外の車両は通行禁止とする。
- 大舞台広場：飯田の祭りや文化、駅前エリアの中心の場。
- 各町のまち舞台：各町の中心の場。
- 文化エリア：自然と歴史とエコロジーのエリア。
- 交通エリア：バスや電車、リニアの交通拠点。
- 商業エリア：大小の商店が南北に連なるエリア。
- 駐車場：各町に散らばる駐車場を横通りに集約する。

「高速バスとリニアシャトルバスの計画ルート」

## ① 駅前からりんご並木への通りを賑わいのある歩行者空間とします

### A. 歩行者がまちを自由に往来できる交通ルールを設定します

大火の際に大通りは防火帯として拡張され、車の主要動線となり、それによって町は分断されてしまっています。かつてのように人々が縦横無尽に町を往来し、活気づいた街を形成するために、中心市街地内には新しく交通ルールを設け、市街地へ行き来する車や高速バスは新しいルートを使用します。それに伴い街中に散らばる駐車場を横通りに再配置・集約します。



着眼点① 【いいだの歴史軸と縦町】

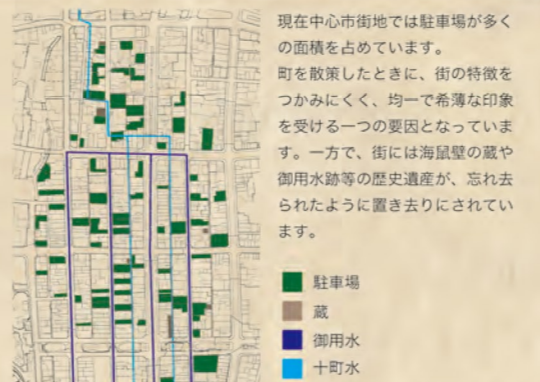
### B. 歴史を繋ぐ縦通りをまちの賑わいの軸として設定します

縦通りを人々が行きかう主要動線として設定します。特に通り町は中心市街地の中心を通り、駅前大舞台広場からりんご並木や文化施設、飯田城跡地等の街の重要な拠点結び、飯田の歴史を一気に縦断する場となります。

## ② “まち舞台”と“大舞台広場”を中心にまちの特色や魅力を創出します

### C. 各町の特色を育む“まち舞台”をつくります

駐車場の空地を活用し、各町がそれぞれの特色を創出する場をつくります。その中心としてまち舞台を設けます。まち舞台は祭りで使う神輿や屋台、道具等を展示・保管する場、練習・稽古をする場、公演を行う場となります。まち舞台の施設や使い方は各町の特性に合わせるものとし、海風壁の蔵を改修して展示会場にしたり、子供たちに伝統芸能を伝承する場にしたりします。



着眼点② 【駐車場と隠れた歴史遺産】

### D. 各町の文化や祭りの拠点となる“大舞台広場”をつくります

通り町の始点に大舞台広場を設け、それを中心として駅前通りの整備を行います。大舞台広場は多種多様な祭りや文化の拠点であり、飯田の玄関口としての顔となります。大舞台には回廊が廻り、南北で一体的な広場を形成するとともに、そこから文化エリアや商業エリア、交通エリアなどに接続されます。

## ③ 多種多様な文化や自然をもつ飯田を世界にアピールします

### E. 季節の祭りや植生や生活をまちに取り込みます

まつりやまち舞台、飯田の植生を活用して、色彩や音や香りで季節を感じる場づくりをします。飯田には年間を通して祭りがあり、季節を彩る豊かな植生があります。あの太鼓のリズムが聞こえてきたら夏の季節、桜が咲いたら祭りの準備をするといったように、人々の暮らしと植生が呼応しながら、まちの中に飯田の四季が生まれます。

「柿の葉の雀隠れに 至を待け」  
「阿彌陀寺の桜が咲いたら 榎崎をせよ」  
「紫苑が咲いたら 冬支度にかかれ」  
「栗の花の盛りが 田植えの盛り」  
「カッコウが鳴くともう 霜がこない」  
「風越山に雲がわかると 天気が変わる」

飯田の地域には自然が伝承されています。花の開花状況や実・葉の発育状況、山に見る残雪の形や動物の鳴き声を季節の指標として、人々は農耕等の生産や衣食住の生活をしていました。

着眼点③ 【飯田に伝わる自然歴】

### F. “いいだ祭り”を提案します

りんごが赤く実った季節に“いいだ祭り”を開催することを提案します。いつもは別々に祭りをやっている各町や神社、団体が通り町にそれぞれの神輿や屋台、花火を出すことで、“いいだ”の歴史や文化、人々が歴史を繋ぐ大通りで一つに集結します。風越山を背景に大舞台では各種の踊りが演じられ、そこからりんご並木、飯田城へと続く大通りにはそれぞれの祭りの道具がずらりと並びます。そこに、多種多様な文化をもつ飯田のドラマティックな姿が表出します。

## 事業計画

まちづくりカンパニーが中心となって事業を進めます。〈準備期〉には行政や土地所有者と協議して、道路の計画・整備や土地の整理を行います。準備期は街を活性化させるための街の土壌を形成する期間になります。〈成熟期〉には各町の住民とつくる人と計画を練り、実行していきます。まちづくりカンパニーは街全体でのデザインや植生のバランスを管理します。街の魅力を高めつつ、土地の価値を向上させます。〈展開期〉には空き地やテナントに新規入居者や事業者を誘致します。町の特徴を活用しながら新しい人や文化を取り入れ、町の魅力や経済をさらに活性化させ世界に飯田を発信していきます。

